

Ⅱ 令和6年度広島かき生産出荷状況

1 生産量

区 分		令和6年度		令和 5年度	平 年
		対前年度 (比率)	対平年 (比率)		
総生産量(トン)	16,900	－900 (95%)	－890 (95%)	17,800	17,790
生鮮向け(トン)	5,300	＋100 (102%)	－1,500 (78%)	5,200	6,800
加工向け(トン)	11,600	－1,000 (92%)	＋610 (106%)	12,600	10,990

(注) 平年：平成26年から令和5年の平均値

(水産課調べ)

(1) 生産量

ア 総生産量は16,900トンで、前年を5ポイント、平年を5ポイント下回った。

イ 生鮮向けは5,300トンで、前年を2ポイント上回り、平年を22ポイント下回った。

ウ 加工向けは11,600トンで、前年を8ポイント下回り、平年を6ポイント上回った。

(2) 生産状況

ア 採苗は、かきの餌が多い広島湾北部海域への母貝筏の設置や、かき幼生調査結果等の共有化を図ったことで、7月末には必要数量を確保した。

イ 出荷は、広島かき生産対策協議会において出荷開始日を令和6年10月21日とすること、令和7年1月31日までは水曜日を隔週休業(12月を除く)とすることを決定した。

ウ 身入りは、漁期始めは平年を下回ったが、漁期中盤以降は平年を上回って推移したことから、今期の平均むき身重量は、16.0gとなり、平年並みだった。(第2図)

(3) 出荷状況

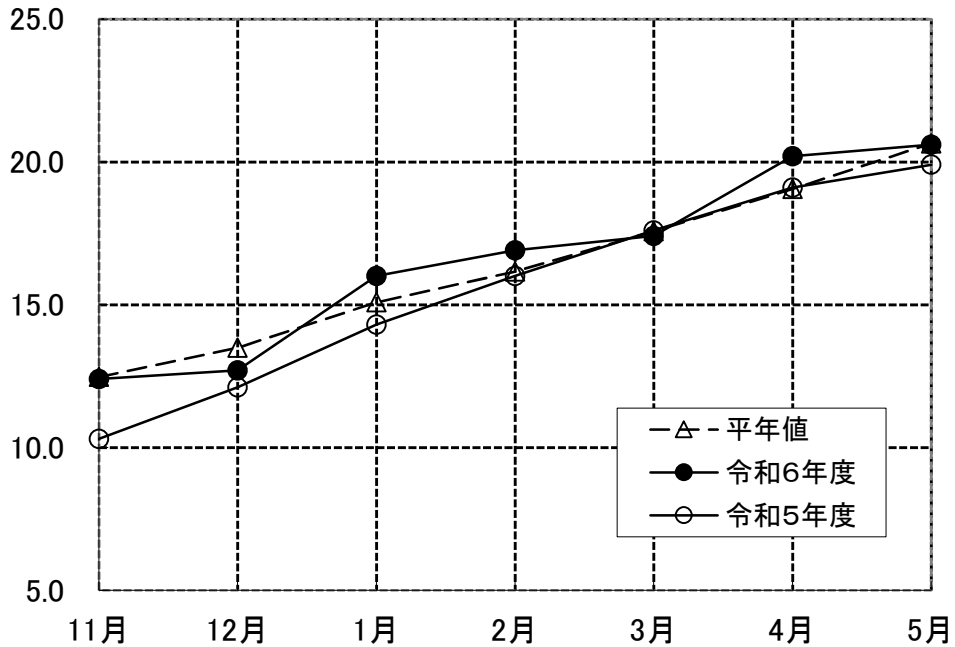
ア 調査を行った全国の市場へのかき出荷量は、7,053トンで、前年を8ポイント下回った。このうち本県出荷量は、2,624トンで、前年を6ポイント下回った。本県出荷量が全国に占める割合は37%で前年を1ポイント上回った。

イ 漁期前半の出荷は、かき殻排出量抑制等によりむき身出荷開始時期が遅れたことや、夏場の高水温によるへい死により出荷量が落ち込んだことから、生鮮向けが低調で推移し、平年を下回った。漁期後半の出荷は、加工向けの需要が昨年を引き続き高かったことや、浜値が終始高値で推移した影響から、平年を上回った。

(第3図)

県内の年間平均むき身重量は 16.0g となり、前年（15.3g）を上回り、平年（16.0g）並であった。

（g / 個）

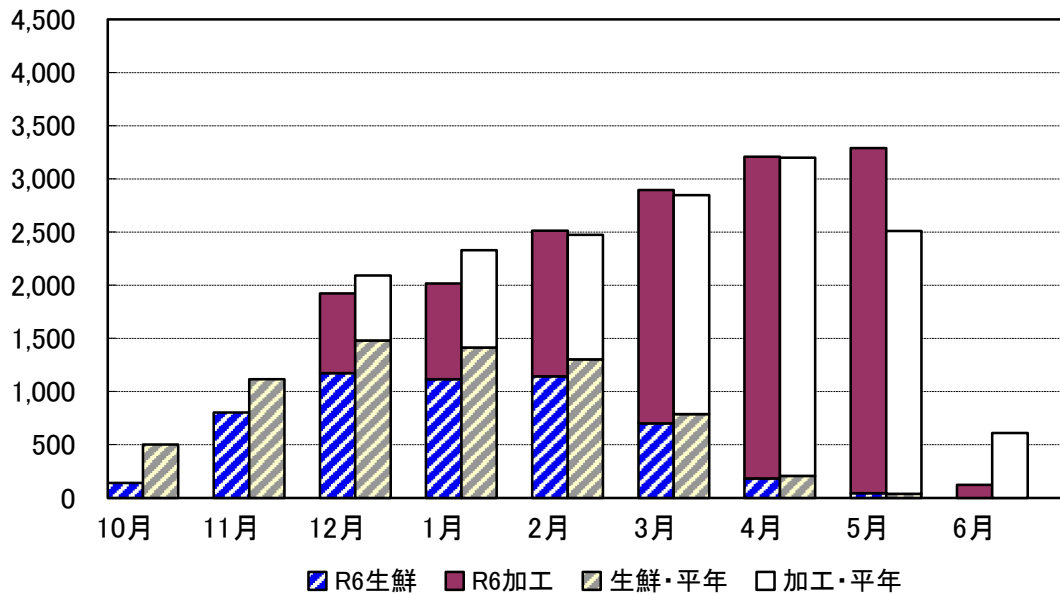


（注）平年値は平成26年から令和5年の平均

（水産課調べ）

第2図 月別出荷個体重(県平均)

（トン）



（注）平年値は平成26年から令和5年の平均

（水産課調べ）

第3図 用途別月別出荷量

2 生産額

区 分	令和6年度		令和 5年度	平 年
		対前年度 (比率)	対平年 (比率)	
生産額(億円)	222	－15 (94%)	＋36 (119%)	237
平均単価(円/kg)	1,311	－19 (99%)	＋265 (125%)	1,046
生鮮向け(円/kg)	1,743	＋84 (105%)	＋409 (131%)	1,334
加工向け(円/kg)	1,113	－82 (93%)	＋243 (128%)	870

(注) 平年：平成26年から令和5年の平均値

(水産課調べ)

(1) 生産額

ア 生産額は222億円で、前年を6ポイント下回り、平年を19ポイント上回った。

イ 生鮮向け生産額は93億円で、前年を8ポイント、平年を3ポイント上回った。

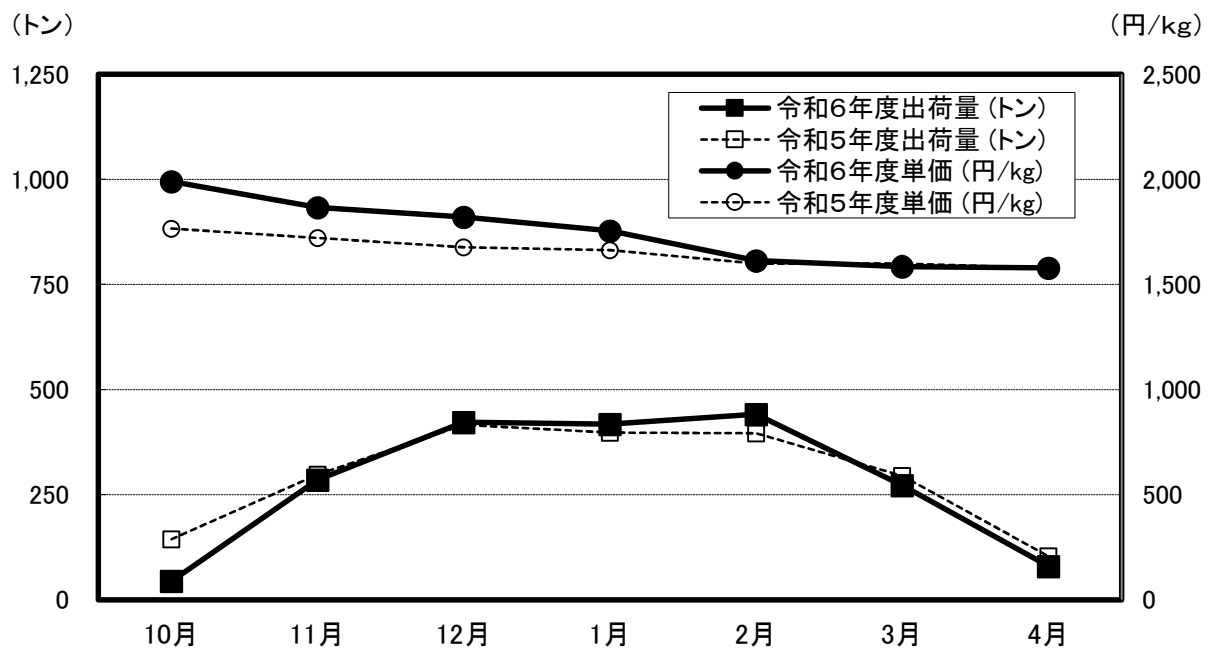
ウ 加工向け生産額は129億円で、前年を15ポイント下回り、平年を34ポイント上回った。

(2) 単価

ア 平均単価は1,311円/kgで、前年を1ポイント下回り、平年を25ポイント上回った。

イ 生鮮向け単価は1,743円/kgで、前年を5ポイント、平年を31ポイント上回った。

ウ 加工向け単価は1,113円/kgで、前年を7ポイント下回り、平年を28ポイント上回った。



第4図 主要市場への出荷実績

(水産課調べ)